



PROJECT 08

石徹白の自然の恵みを多方面へ展開

PROJECT PARTNER

稲倉 哲郎

稲倉哲郎(てつろうさん)

似顔絵・写真



キャッチコピー・座右の銘

継続は力なり

フランクな自己紹介

郡上の石徹白で自然栽培で農業を営んで早13年目。どれほどの進歩をしてきたかは甚だ心もとないが、継続は力なりを信条に続けています。

続けているといえばブログ～FBと移り変わって来ていますが、就農当初より積極的にWEBでの発信も続けています。

もっとも農業記事よりも趣味を超えたマニアな音楽記事のほうがよほど熱心で多いという周りの評価も相変わらずかも。

プロフィール文

1970年愛知県弥富市生まれ。

大学在学中に旅行で行ったインドネシアに魅了され卒業後1年弱旅行する。帰国後マレーシアに合弁工場をもっていた郡上市の企業に就職したことから郡上生活が始まる。

2003年に妻の実家がある石徹白で農業を始めるために移住。

2005年に独立、屋号を『農園サユールイトシロ』とし、

全圃場を自然栽培による農業に取り組む。

2014年より研修生の受け入れ制度を開始。

農業と並行して、2012年に『石徹白ふるさと食品加工組合』の立ち上げに参加。組合長として現在に至る。

自分ヒストリー

昔

今

■小学生(ー1981)

生まれつき目が悪く、幼稚園時代からめがねをかけていた。当然メガネザルと呼ばれて当時はまだ眼鏡をかけた小学生は珍しかったのでよくからかわれた。このころすでに自分は他とは違うと思いつむ。趣味は3つ上の兄貴のあとを追うように鉄道切符集め～鉄道模型～モデルガン集めに、友人たちとは昆虫採集に熱中する。

■中学生(1982ー84)

小学校4年生の個人的事件(ちょっと言えない)があつて以来、あまり楽しかった記憶がない。中学3年の時に久々に同じクラスになった友人から勧められて聞いたビートルズから始まった音楽探検がその後の人生を半分以上決めた。

■高校生(1985ー88)

部活は帰宅部。友人たちとバンドやったりレコード聞いたりの方が楽しかった時代。それまで紋々として自信のなかつた人生が高3あたりから吹切れた。周りに気を使っているよりも、自分の場所を作って堂々としていればいい、ということに気付く。

■大学生(1989ー92)

大学生になりバイトをはじめ、収入はほとんどレコードやCDに消えていた時代。

■インドネシア滞在期(1993ー94)

卒業後バイトで資金をため約10か月インドネシア各地に滞在。誰も知らない、言葉もわからないところで強く生き抜く術と人との付き合い方を学ぶ。自分の人生の中では一大転換期。

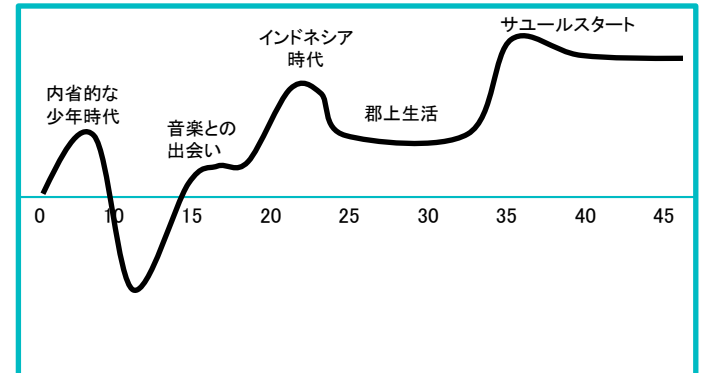
■社会人(1995ー02)

帰国後、紹介で郡上市白鳥町の木材関係会社に就職する。小さい会社の小さい部門だったが1から10までの仕事をやらせてもらえて非常に勉強になった。

■石徹白(2003ー)

やりがいにはあつたが50、60代になっても同じ仕事を続けているイメージができなくなり、妻の実家である石徹白で「なにか新しいこと」をやるべく農業の世界に飛び込む。2年間、石徹白の実家で修行後2005年に農園サユールイトシロを開園。

人生グラフ:横軸は年齢・縦軸はイキイキ度(幸せ度)。人生で輝いていた時、沈んでいた時を見える化しましょう!



みんなが知らない自慢・芸・得意技

インドネシア語、マレーシア語少々に加え、郡上弁石徹白方言の研究にも余念がない。農家でありながらの日本のワールドミュージック界ではちょこっとは知られた存在です。

PJPシート プロジェクト編① いなくら てつろう
稲倉哲郎(てつろうさん)

個人的背景

これまでも多くの方からサユールイトシロの農作物についての高い評価をいただいています。それを可能にしているのが石徹白の持つ魅力、水や地味の良さです。本当においしいものを頂くと人は幸せな気持ちになるものです。サユールイトシロの野菜のそういった力があるとすれば、その野菜をもっとたくさんの人に食べていただきたいと思います。

課題・ビジネスチャンス

2005年に農園サユールイトシロを立ち上げ、当初より無農薬無肥料の自然栽培で農業経営を行ってきました。また2012年からは石徹白ふるさと食品加工組合の組合長として、石徹白に残されていた加工所の運営にも携わってきました。石徹白や郡上を広く知ってもらうのに農や食はとてもふさわしい。これらを生かして志を同じくするものが集えば、この地にあった新しいスタイルの農業を作って行けるのではないかと考えています。

プロジェクト概要

石徹白の自然栽培のピュアな恵みを多方面へ展開

現在のサユールイトシロの野菜の販売は自然栽培専門の販売業者への卸販売がほとんどです。

今後の取り組みとして石徹白ファン、自然栽培ファン、郡上ファンなどへ直接アプローチした販売を広めたいと考えています。

販売するものは何も青果物、農産物だけとは限りません。加工品の製造や農家ならではの体験やワークショップなどもその対象となりえます。

また石徹白や郡上内で様々な活動を行っている事業者や団体とのコラボレーションを試みながら、郡上、石徹白ファンを増やしていくと取り組みを進めていきたい。

また季節や時期によって業務の内容や全体の中での比重も変わっていきます。将来的には各スタッフがそれぞれの部門で責任を持ちつつ、全体を皆でフォローしあえる緩やかな部分も持ち合わせていければと思います。



あなたは、郡上のどんな①人・コミュニティ②自然③文化に根ざしていて、このPJはそれぞれにどんな価値を還元できると思いますか？

	①人・コミュニティ	②自然	③文化
あなたが根ざしているもの	サユールイトシロや加工組合を支えている石徹白や郡上、また地域外であってもいつも関心を持ってくださっている方たち。	石徹白の土地そのもの、水、自然。	これまで地域の食文化を担ってきた石徹白かぶらなど
プロジェクトがそれぞれに対して還元できる価値	石徹白の価値を上げる、また将来的雇用の場を創出する	できるだけ今ある自然を汚さない形で次世代に引き継いでいける農業の創出する	様々な野菜の自家採種を進めていくことで新たな「伝統野菜」を育て、継承していくこと

3年間のロードマップと3年後にどうなってほしいか

1年目 ↓	直売スタイルの準備～確立	やること	<ul style="list-style-type: none"> ・(農業未経験者の場合)農業研修 ・小ロット多品目栽培 ・ネット直売サイトの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の加工品の製品開発
2年目 ↓	石徹白ファン獲得のための施策	やること	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験 ・援農イベント・WSのテスト開催 ⇒石徹白や郡上の他の人や団体との共同企画も模索する。 	
3年目 ↓	1年目と2年目の成果を形にしていく 施策	やること	<ul style="list-style-type: none"> ・石徹白の外への販売とPR ・石徹白内にファンを呼び込み繋がりを強める⇒継続的は関係を構築する 	<ul style="list-style-type: none"> ・農作物の販売だけに頼らない経営を作り上げる。
3年後の理想状態 プロジェクトの自立運営を果たし、その後の新たな雇用につなげていく。				

どんな人に来てほしいか？スキル/マインド/実績など

募集メッセージ(プロジェクトのわくわく感)

PJPの関わり方

<p>農業経験の有無は問いません。ただし農業が大好き、あるいは食べることに人以上に興味がある、体を使った労働を厭わないという方、あるいはそういう気概のある方は適任だと思います。必須条件ではありませんがWEBでの情報発信やWEBデザインなどの知識がある方は当プロジェクトでも生かせると思います。</p>	<p>こんな都会の喧騒からかけ離れた奥地から、人を感動させることのできる商品を送り出すことができる仕事ってなんて素敵なんだろうと思う。そして、それはこの地でしっかり足をつけて、土に触れながらやれることにこそ大きな意味があるのです。このプロジェクトにかかわるすべての人が幸せを感じられるようにしましょう。</p>	<p>A. 私自身がフルコミットして一緒に取り組みます。 B. 私が今取り組んでる事業を基盤に、新しい事業と一緒につくります。 C. 私にとっても未知の分野、新しいチャレンジです。</p>
--	---	--

暮らしのイメージとサポート

<p>プロジェクトの対象地域 石徹白</p> <p>その地域での暮らしはどんなものですか？(※移住者の居住地がこの地域になるとは限りません)</p> <p>コンビニはおろかお店などはなく近くの町まで車で30分かかります。しかし、幼稚園も小学校もあります。厳しくも豊かな自然もたっぷり残っています。そして暮らしの知恵を身に着けた人々がたくさんみえます。</p>	<p>あなたはプロジェクトに応募する人の暮らしにどんなサポートできますか？</p> <p>自然栽培における農業技術をお伝えします。 またこの地域で生活する際の必要な知識や知恵などお伝えし、サポートします。</p>
---	--